

1月23日（火） セブ（フィリピン）

在セブ日本国総領事館

マニラからセブへ飛行機で移動したのち、在セブ日本国総領事館を訪問し、矢富主席領事より、セブの概況や日本からの観光状況、語学留学によるセブの観光ツーリズムなどについて説明を聴取した。

【説明概要】

日本国総領事館は、2021 年以前は総領事事務所としてフィリピン日本大使館の支部としての位置づけであったが、2021 年 1 月から格上げされ、日本国総領事館となった。

格上げされた理由は、セブにおける在留邦人、観光客が多くなったことが挙げられ、日本がフィリピンの関係を重視している表れとのことである。コロナ禍で活動が停滞していたが、昨年からようやく交流が増えてきた状況である。

フィリピンは地理的に日本から近く、時差も少ないため、日本人から見ても身近な国である。英語が通じるため観光に抵抗がないと考えられる。特にセブは、一年中温暖で、夏も気温が上がらず日陰では涼しいことから、日本より過ごしやすい。

また、物価が安く、美しいビーチやダイビングスポットが多いことも観光地として好まれている。最近では、円安の影響もあり、フィリピンから日本への観光も増えている。

フィリピン人の国民性としては、ホスピタリティがあり、東洋のラテンと言われているほどあたたかく明るい方が多い。

フィリピンの言語の種類は 87 語あり、例えば、マニラはタガログ語、セブはビサヤ語、ビサヤ語の中にもいくつか種類があるなど非常に多い。学校教育は英語で行われており、英語が公用語とされている。

また、多様な人種の国である。宗教はキリスト教が 9 割以上（カトリックが 8 割程度）である。

（歴史の概略）

1521 年、マゼランがセブ島の王と女王に「キリスト教」への改宗を求め、女王にキリストの子どもの像を贈呈したことを起源とするシヌログ祭りがある。

ちょうど 1 月 21 日が祭りの日であり、セブではパレードが開催される大きな祭りである。

しかし、マクタン島の首長ラブラブは、マゼランの改宗の求めに応じず、マゼ

ランとの戦いで勝利したことから、「フィリピンの英雄」とされている。

スペイン軍の遠征隊が送りこまれ、1898 年までスペインによる統治が続き、その後アメリカによる統治、第二次世界大戦中の 1941 年から日本軍により占領されたことから、当時は日本と険しい関係にあった。

1946 年にフィリピン共和国として独立した。

(観光客について)

フィリピンを観光する日本人はリピーターが多い。

特に、セブに来る目的は、英語の語学短期留学やダイビングが多い。なんとなく観光地をめぐるというよりも、目的をもって来る人が多いのが特徴である。

フィリピン観光の国別の入国者は、1 位が韓国、2 位が中国、3 位がアメリカ、4 位は日本となっている。

昨年からの入国者は 30 万人で、2019 年時点の 68 万人に対して半分以上となっているが、これは日本からの直行便が少ないことが原因と思われる。また、円安の影響も考えられる。

セブのリゾートエリアは、セブ市街地側ではなくマクタン島側にあり、島の東海岸にリゾートホテルが集中しており、空港からのアクセスが良好な位置にある。NUSTAR Casino & Resorts Cebu など非常に大きなホテルが建設中であり、オカダ・マニラグループのエメラルドカジノリゾートも 2025 年開業予定となっている。

(英語留学について)

フィリピンでは、ネイティブではないが英語が公用語となっている。

セブでの英語留学は、マンツーマンで行われるため上達が早く、また、セブはマリンスポーツも多く、勉強以外の面でも楽しめることが留学先として選ばれる理由になっている。

日本から英語留学で入国した件数については、2019 年まで 1 万 1,600 件であった。コロナ禍で件数は激減したが、2023 年は 6,908 件と盛り返しており、英語留学生の数が戻ってきている。

また、2021 年にセブ・マクタン島に日系の大学であるラプラプセブ国際大学が設立されたことにより、今後セブへの英語留学生が増えるものと思われる。

【質疑応答】

Q：観光誘致として日本からの観光客数の目標人数は。

A：セブとしては日本だけではなく、広くいろいろな国から来てほしいと思っている。フィリピン政府は 2024 年に海外からの観光客として 770 万人をめざ

しているとのこと。

Q：マニラ市議会では、一つの政党がすべての議席を占めているとのことだが、セブでは？

A：政党はたくさんあるが、強い政党が全議席をとっているわけではない。市長が代わると前政権のことを否定していく傾向にあるので、一貫性はない。名門である一族が何度も政権を取る、また3期務めると1期空ける必要があるなど、日本と異なる点がある。現在のセブ市長も何回か市長を務めている。

Q：中国との関係は、どんな状況か。

A：フィリピンと中国との関係については、南シナ海でぎくしゃくしている。内心では警戒しているところがあると思われる。

Q：パスポートを紛失する人は、年間でどれくらいの件数か。

A：観光客が多いので紛失件数は多いと思っていたが、想定していたほどではなかった。セブはスリが多いわけではない。

Q：銃による犯罪は多いか。

A：フィリピンは銃社会であり、銃による犯罪が多い。地方選挙では立候補者が殺されるなど事件が多くなる。当館も地方選挙では在留邦人に注意を出している。ジャーナリストも銃殺されている。普通に生活していれば、銃で狙われるということはない。

Q：先ほど説明いただいたフィリピンの歴史的経過を聞いて、フィリピン人ほどのようなアイデンティティを持っているのか気になった。スペイン、アメリカ、日本に統治された歴史があり、また、群島が多く、言語もバラバラであることから、ワンフィリピンになるには難しい背景だと思われるが。また、1940年代の日本占領下にあった過去がありながらも、親日的であると感じるが、実際のところは。

A：1946年にフィリピン共和国として独立したが、言葉も民族も異なり、それまではバラバラであったと思う。フィリピンを一つにしているものとして、宗教（キリスト教）の存在も大きいと思われる。また、セブにはラプラプ王の銅像があり、ラプラプ市という都市もあるが、マゼランと戦って追い出した英雄が西欧に対する抵抗の象徴として愛国心とつながっているのかもしれない。

Q：昨日はマニラ市役所で国旗掲揚式があった。国歌が流れたら止まらないといけないなど聞いた。

A：半強制的に国旗掲揚の式や国歌に対する態度など、愛国心醸成のために行われていると思われる。戦後間もない頃は日本に対しては敵対心があったが、今は全くないと思われる。むしろ、若いフィリピン人は日本が好きで日本に行きたいという人が多い。日本と仲良くしていきたいという前向きなフィリ

ピン人が多い。

Q：ドゥテルテ大統領の時に治安は良かったのか。

A：「フィリピン麻薬戦争」と言われるなど、超法規的な対応に国際的な批判もあったが、彼の任期中の方が治安は良かったという人もいる。大統領を退任してから今も人気は高い。日本領事館に一度来られたことがあったが、聴衆の心をつかんで大笑いさせる話術が素晴らしかったのが印象的である。

Q：マニラではストリートチルドレンが多いのを見て驚いた。中央分離帯で寝ている子もいたが、セブも同じような状況なのか。子供たちは学校にも行くことができるし、その制度もあるが、彼らが怠けているだけだとマニラで言われた。出産も無料でできると。

A：セブにもそういう路上生活者はいるが、マニラほどではない。学校に行くことはできるがいろいろとお金はかかる。ビジネスとして大人が子どもにやらせてお金を集めているのかもしれない。



総領事館内の会議室にて矢富主席領事（前列左から3人目）とともに

語学学校（NexSeed）

在大阪フィリピン総領事館から視察先として紹介いただいた語学学校 NexSeed を訪問した。（当日訪問したセブ日本国総領事館と同じ建物内にある）

NexSeed は、セブ島で「グローバルに活躍できる人材を育てる」ことを目的として、2013 年に日本人により創設された学校で、プログラミングと英語を同時

に学べる I T 留学「Seed Tech School」や、スラムエリア視察や企業訪問もできる「Experience（現地体験授業）」など、単に英語を勉強するだけにとどまらない留学の形を提供している。高原大輔代表取締役より、留学生誘致で波及する経済効果等について説明を聴取し、その後、車で移動し、同氏による案内で、日本にはない生活環境を見るためにセブ中国人墓地にて現地体験授業を視察した。

【説明概要】

（セブでの英語留学について）

日本と世界がつながるビジネスがしたい、日本のグローバル化に資することとして英語留学をとという思いがあり、フィリピンの英語留学に目を付けた。2013 年からセブで語学学校を立ち上げ、一昨年シードテック株式会社も立ち上げた。

語学ビジネスの市場規模は 2022 年度 7,806 億円であり、2023 年度は 8,119 億円となっており、コロナが落ち着いたことでニーズが戻ってきている。その一方で、日本人の英語力は低下を続けており、世界ランキング 87 位まで転落している。（ちなみに、フィリピンは 20 位となっている。）原因としては、日本の英語教育が受験対策を重視したものとなり、また、日本人は英語を使う機会が少ないことが考えられる。一方、フィリピンは地域により母国語がそれぞれ異なるため、公用語として英語が使われており、小学校からほとんどの科目を英語で勉強している。

コールセンターやデータ入力などの BPO 産業において、フィリピンは英語ができるということで世界中からフィリピンに発注されており、外貨が流入している。英語ができるということは仕事で稼げることにつながる。

韓国は世界ランキング 49 位となっており、日本を大きく上回っている。セブ留学事業を最初に展開したのは韓国であり（2001 年から開始）、日本より約 10 年早く手掛けている。2 か月～3 か月、効率的にセブで学んである程度英語力を身に付けてから、オーストラリアに留学するという方が多い。韓国では英語を身に付けなければならないという意識が高く、300 名規模の韓国系の英語語学学校もあり、こういったムーブメントが浸透しているように思う。



語学学校 NexSeed 内会議室での説明聴取の様子

（Seed Tech のサービスの紹介）

Seed Tech のサービスとして、セブ島での合宿形式の IT 留学やオンライン研

修サービスの提供を行う教育事業と、IT 人材確保・育成からマネジメントまで包括的に支援する人材開発事業を行っている。

人材開発事業は、例えばメルカリのサービスを作るなど、開発を受け持ってエンジニアシステムを作っている。日本だと 80 万円かかるものをセブでは 30 万円ですることができるなど人件費の価格差を利用して利益を生み出している。

教育事業は、Eラーニングを使用して、月々3,000 円程度で提供している。合宿形式の IT 留学の宿舎は、2 人か 3 人部屋となっており、高校生や大学生、社会人など入り混じって参加している。英語研修については、マンツーマンレッスン 1 コマ 50 分を一日 6 コマ行っているが、このように英語漬けの状態です 3 か月間学ぶとかなり話せるレベルになり、東南アジアで仕事ができる程度になれる。

IT 研修については、半日 3 コマを英語、半日 3 コマをプログラム学習としている。3 か月続けて、卒業する頃にはグローバルエンジニアになれるレベルになる。IT 研修に参加する人は、就職活動に生かしたい大学生や転職希望の方、起業したい方などであり、企業研修として楽天などが研修で来られる。

【質疑応答】

Q：なぜ日本人はセブに留学に来るのか。

A：一般的に、アメリカやカナダではグループレッスンが主流である。セブ留学は人件費が安いので、マンツーマンでしっかり学べるのが魅力である。先生はフィリピン人だが、英語が非常に上手である。

Q：オンラインでの留学よりも、実際に現地で留学した方がいいのか。

A：オンラインでベースを作って、安く勉強して身に付けてから留学に行くということはよいと思うが、日本人はハングリー精神がないため、海外でいろんな人達に実際に会うことも非常に大切な経験になる。例えば現地でアルバイトをすることによって、普通に暮らして良いごはんが食べられる恵まれた日本の中だけではなく、海外の文化を知り、経験するということができ、とても大切だと思う。

Q：日本人以外の語学学校の生徒の割合は。

A：NexSeed は、日本人の生徒が 8 割、台湾人が 2 割となっている。セブ英語留学全体的には、韓国が一番多く、次いで日本、その次に台湾人という割合である。

Q：日本の教育機関と提携しているのか。

A：大学や高校と提携している。保育事業の企業が保育士の研修としても参加されている。

Q：英語留学の費用はいくらか。

A：費用は 1 か月で 20 万円、2 か月だと 30 万円台後半である。英語留学は 1 週

間から2週間の短期も選択できる。年末年始には、日本の学校教員向けに、教員に限った1週間の留学プログラムも提供している。教師が変わると学校が変わっている。1週間で英語力が劇的に上がるわけではないが、英語に対する恐怖心がなくなり、外国人と話す感覚はつかめる。

Q：語学学校に申し込んだが、途中で離脱する人はいるのか。

A：離脱して、途中帰国する人はいない。必ず事前にオンラインで面談してから来てもらっている。東南アジアでの生活についてももしっかり説明しており、実態とのギャップがないようにしている。

Q：マンツーマンはその人にあったセミオーダーメイドな学習内容になっているのか。

A：入学時にテストをして、「話す」、「聞く」、「書く」全ての点でレベルに合わせた教材を組み立てている。また、定期的にテストを行い、成長レベルに合わせている。卒業生の中にはアマゾン本社で働いている人もいる。

【Experience（現地体験授業）説明概要】

現地体験授業の目的は2つあり、一つは大人数の前で自身の意見を英語で述べるパブリックスピーキングの強化である。人前に立って発表することへの自信付け、与えられたトピックについて正確に見識や意見を共有し他者と議論するためにプレゼンテーションの機会を設けている。

もう一つは、グローバルに活躍するためのマインドセットであり、固定概念にとらわれず様々な視点で物事を見て考えるマインドは学校での座学ではなく、実際の現場での経験によって培われると考えているため、グローバルマインドを養う機会を提供している。

今回の視察訪問したセブ中国人墓地 (Chinese Cemetery) は、1909年にアソシエーション・ベネヴォラ・デ・セブという企業の代表、ドン・ベニート・タン・ウンチュアンによって設立された。彼は中国に送還されるはずだった方々の遺骨の一部を安置する場所をセブ島に作り、現在では約400世帯の非正規滞在者が霊廟に住居を構え生活をしている。



セブ中国人墓地内を案内される。

ここは、生活環境としては清潔ではなく、日本人からするとそのような環境で生活している人がいることに大きなギャップを感じられるが、貧困者が生活する地域である。観光では訪れることができない場所で、フィリピンの貧しい生活

をする人々の背景、彼らの心情をより鮮明に理解できる体験授業となっている。

このスラムエリアでの学びを通して、1. ボランティア活動の意義、2. 日本にはない生活環境を見て何を感じるか、3. 日本人ができることは何かを考える機会を提供している。



セブ中国人墓地前にて高原代表取締役（前列右から4人目）とともに。

【各会派の所感】

[大阪維新の会]

日本人の英語力は低下を続けており、世界ランキング 87 位まで転落している。その解決策のひとつとしてフィリピン留学の有効性について以下のように感じた。

1. 英語環境での学習

フィリピンは英語を公用語として使用しており、英語環境での学習が可能である。留学生は日常生活や授業、交流の中で英語を使う機会が豊富であり、自然な形で英語力を向上させることができる。

2. 高品質な英語教育機関

フィリピンには多くの語学学校が存在している。これらの学校では、専門的な英語の授業と共にプログラミングなどの専門知識を学ぶことができる学習プログラムが提供されており、単に英語を勉強するだけにとどまらない高品質な授業を受けることができる。

3. 文化的な交流と異文化理解

フィリピン留学では、日本とは異なる文化や習慣に触れることができる。異文化理解を深めることで、コミュニケーション能力や国際感覚を向上させることができる。今回視察したセブ中国人墓地 (Chinese Cemetery) のような日本では経験できない学びを通して、単に語学留学をしているだけではなく、さまざまな環境で暮らす人々を知ることが真のグローバル社会で活躍するための人材として不可欠な能力である。

4. 経済的な負担の軽減

フィリピン留学は、他の英語圏の国々に比べて費用が比較的安い傾向がある。そのため、経済的な負担を軽減しながら英語力を向上させることができる。費用が安いフィリピンで基礎的な英語を学び、オーストラリアなどに留学をすることは費用対効果も良い。

英語力は、グローバルな競争力を高めるために不可欠な要素である。フィリピン留学を通じて英語力を向上させることで、将来のキャリアの機会をさらに広げてもらいたいと感じた。

[自由民主党・市民クラブ]

日本は英語力とりわけ会話力が世界で下位であり、日本の英語力を上げる必要性を感じた。この学校では3か月間1日6時限で英語の日常会話をマスターしてもらう為にマンツーマン授業をフィリピンの安価な人件費で可能とし、受講生のほぼ全員が卒業まで進むとのことで自分自身も学びたいと感じた。

現地視察した場所は、スラム街の中に堀で囲われたテント暮らしのような場所があり、人々が普通に生活している事にカルチャーショックを受けた。しかし、そこで暮らす子供たちを含め人々は笑顔がたくさんあり、少し安心したが、特に教育をはじめとする貧困施策の必要性を強く感じた。

[自由民主党・市民とつながる・くらしが第一]

セブ島といえば、リゾートというイメージだが、セブ市街地にはそのようなものがない。マニラ市街地同様に資本主義の経済成長過程で現れる格差が目に見える。日本から4時間で時差は1時間、過ごしやすいがフィリピン観光の国別入国者は、日本が第4位にとどまっている。フィリピンへの直行便は東京か

らの3便のみであり、関西からの直行便はない。半数近くがリピーターとのこと。現在の観光大臣は女性、セブ州出身であり、母が州知事を務めた人でもあり、大いに期待されている。

フィリピンでは英語が公用語で、ネイティブでないから聴き取りやすいとのこと。確かに、たくさんの方と会話したが話すことはできなくても、聴き取ることは比較的できた。現在日本でも同様にたくさんの外国人観光客であふれているが、英語はどれぐらい通じるだろうか。

多言語、多民族の国であるため、キリスト教9割以上（カトリックが8割程度）であることが、国がまとまるひとつの要素ではないかとのこと。国旗、国歌を象徴とし、英語が公用語などつながる要素がいくつかある。

生野区では60か国を超える外国籍の方が住んでおり、多文化共生をどのように進めていくか課題であり参考にし、取り組みを進めていきたい。

（語学学校（NexSeed））

語学ビジネス市場規模2023年度は8,119億円、今後増加傾向であるが、日本人の英語力世界ランキング87位、韓国49位、フィリピンは20位。想像できる数字であるがショックの数字でもある。自分自身を顧みてもあれだけ英語を勉強してきたにも関わらず読むことはできても、話すこと聴くことができない。そして日常的に使うことがないため今では読むことすらできなくなっているのではないか。3か月英語づけで話せるレベルになるのであれば、私も今からでも語学留学をしたい。

日本の小学校で2020年度から小学校での英語教育が3～6年生を対象に必修化された。英語に慣れ親しむからスタートするのは大事だが、使える英語にするためにこうした語学留学プログラムはとても有効である。連携している学校との協働プログラムもあるとのこと。これからますます求められるプログラムである。

日本国内において、BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）活用については、コロナ対応、人手不足やDXの推進などで民間企業や自治体でも進んできており、大阪市でも様々な事業で取り入れられている。国内はイメージできるが、海外からの受注を日本で受けることはなかなか難しいのではないか。コールセンターや、データ入力などのBPO産業においては、世界中がフィリピンに発注しているのはコストと英語が公用語であることが大きな要因であることが理解できた。

また、日本の貧困は、相対的貧困で見えづらくなっているが、フィリピンでは、移動のバスや町の散策からもみることができる絶対的貧困である。（フィリピン統計局貧困率は22.4%（2,524万人）発表。2028年までに、貧困率を

9%に抑制することを目指している：2023年12月22日ロイター記事）

こうした資本主義が生み出す貧困に対して、フィリピンでは公的なアプローチがまだまだ行き届いていないことが特に住居からみえる。

日々食べることに精一杯で、教育が受けられず、貧困は連鎖し、なかなか抜け出すことができない。生活の基礎である住居が不安定であることが目に見えてわかる。住まいは大きな課題である。今回視察訪問したセブ中国人墓地には400世帯が暮らす。また、川沿いの水上にひしめき合うように住居がある。ある日これまで住んでいたところが国の事業などで強制撤去となり住居を失い行き場がなくなる事例もお聞きした。

日本においてもこれまで居住は、福祉というより個人責任の側面が大きく見えづらかったが低所得階層の居住貧困は、コロナ過でより深刻化した。これから大阪府で取り組みを進めていく住宅確保要配慮者への居住支援の重要性を再認識した。

実際に、墓地で暮らす方にヒアリングさせていただく。「子どもは、墓地の家から学校に通っている」「仕事は洗濯を請け負っている」「子どもを産むときは支援を受けて無料で産むことができた」とのことから一定の支援が入っていることはうかがえた。民間のソーシャルワーカーの訪問も定期的にあるとのこと。

今後、まだまだ時間はかかるが、住民自らが地域の改善策を決め、住民自らが生活の基礎となる住居を持つプロセスを通じて力をつけエンパワーしていく取り組みを進めている国際NGOハビタット・フォー・ヒューマニティのような支援を国に期待する。